「ドローンによる港湾施設の点検診断効率化・高度化に関する技術開発・実証」

及び

「船舶離着岸の安全性・効率性向上に関する技術開発・実証」

に関する情報提供書

提出日：2023（令和5）年 月 日

1. **概要**

|  |  |
| --- | --- |
| 所属 | 会社名。複数組織で応募する場合は主担当組織を明示してください。 |
| 所属概要 | 会社の概要（設立年・資本金・事業内容・従業員数等）を記入、もしくはそれがわかる資料・ウェブサイトを添付してください。 |
| 担当者 | 担当者の役職名及び氏名。複数人の場合は主担当者を明示してください。 |
| 別紙に示す対象者の要件を満たしているか | はい　／　いいえ |
| 連絡先 | 監督官庁、低炭素投資促進機構、港湾空港技術研究所から連絡を差し上げる方の氏名、電話、メールアドレスを記入願います。 |

**２．情報提供の内容**

* 下記の①②いずれか又は両方の様式にご記入ください。複数案を提出する場合は様式をコピーしてください。

**①　ドローンによる港湾施設の点検診断効率化・高度化に関する技術開発・実証**

|  |  |
| --- | --- |
| **（1） 提供するプロダクト/サービス（ソリューション）の概要** | ○本技術開発・実証の成果を利用して提供するプロダクト/サービス（ソリューション）の概要について、以下の項目等を参考にして記載してください。　・想定ユーザーが抱えている課題・ニーズの内容、及び提供するプロダクト/サービスが想定ユーザーの課題・ニーズに与える提供価値　・対象とする港湾施設（防波堤、係留施設、護岸、荷役機械、航路・泊地、洋上風力発電設備等）の種別・規模、点検診断の目的（維持管理、災害対応等）、点検診断の項目・従来の目視、手動測定、手動データ整理等による点検診断を効率化・高度化するためのポイントとなる技術の概要（データ自動処理による自動診断アルゴリズム、衛星データとの連携、航行ルート設計、など）、及び当該技術の新規性・先進性・独自性・優位性など・利用又は開発するドローンの特徴（例えば、測位方法、耐風・耐候・耐食性、航続距離、位置制御（対象物への近接）、充電・離着陸ポート、空中ドローン、空中ドローンとROV又はAUVとを組合せたもの、センサー、カメラ、など）、及び、その新規性・先進性・独自性・優位性など　・展開先となる市場の現状と今後の見込み　・利用又は開発するドローン本体やセンサー類等の海外産/国産比率 |
| **(2) 提供するプロダクト/サービスの技術開発・実証内容の想定** | ○提供するプロダクト/サービス（ソリューション）について技術開発・実証を行う場合の想定内容について、以下の項目等を参考にして記載してください。　　・TRL5、TRL6、TRL7の各段階で設定する技術課題（達成すべき技術レベル）と課題解決のための方法（室内実験、現場実証実験、アルゴリズム開発・改良等）　・全体スケジュールと想定コスト※コストは、TRL5、TRL6、TRL7ごとに、百万又は千万円単位にて記入　 |
| **(3)提供するプロダクト/サービスの技術開発・実証の実施、または実現に向けた課題** | ○提供するプロダクト/サービス（ソリューション）について技術開発・実証を行う際、または実現に向けて、想定される課題・リスクと対応策について、以下の項目等を参考にして記載してください。・技術開発・実証段階において、想定される課題・リスクと対応策・技術開発・実証段階以降において、想定される課題・リスクと対応策　　※課題・リスクは、技術的事項、制度・法律等に起因する事項等などを含む |
| **(4) その他** | ○上記(1)～(3)以外にて特筆すべき事項や、本RFIに対するご意見、本事業制度や公募テーマに関するご意見等が御座いましたら、記載してください。 |

* (1)～(4)の情報提供に当たって、必要に応じて枠のサイズを調整、補足説明資料を添付頂いて構いません。

**②　船舶離着岸の安全性・効率性向上に関する技術開発・実証**

|  |  |
| --- | --- |
| **（1） 提供するプロダクト/サービス（ソリューション）の概要** | ○本技術開発・実証の成果を利用して提供するプロダクト/サービス（ソリューション）の概要について、以下の項目等を参考にして記載してください。　・想定ユーザーが抱えている課題・ニーズの内容、及び提供するプロダクト/サービスが想定ユーザーの課題・ニーズに与える提供価値・提供するプロダクト/サービスの適用可能範囲（港湾全体、複数バース、単独バース）　・対象とする既存船舶の種別（貨物船、コンテナ船、フェリー、RORO船等）・船型　・対象とする離着岸の条件（海象・気象条件、自動係留装置の有無など）・従来の船舶離着岸（係留中を含む）の安全性・効率性を向上させるためのポイントとなる技術の概要、及び、当該技術の新規性・先進性・独自性・優位性など　・展開先となる市場の現状と今後の見込み |
| **(2) 提供するプロダクト/サービスの技術開発・実証内容の想定** | ○提供するプロダクト/サービス（ソリューション）について技術開発・実証を行う場合の想定内容について、以下の項目等を参考にして記載してください。　　・TRL5、TRL6、TRL7の各段階で設定する技術課題（達成すべき技術レベル）と課題解決のための方法（室内実験、現場実証実験、アルゴリズム開発・改良等）　・全体スケジュールと想定コスト※コストは、TRL5、TRL6、TRL7ごとに、百万又は千万円単位にて記入　 |
| **(3)提供するプロダクト/サービスの技術開発・実証の実施、または実現に向けた課題** | ○提供するプロダクト/サービス（ソリューション）について技術開発・実証を行う際、または実現に向けて、想定される課題・リスクと対応策について、以下の項目等を参考にして記載してください。・技術開発・実証段階において、想定される課題・リスクと対応策・技術開発・実証段階以降において、想定される課題・リスクと対応策　　※課題・リスクは、技術的事項、制度・法律等に起因する事項等などを含む |
| **(4) その他** | ○上記(1)～(3)以外にて特筆すべき事項や、本RFIに対するご意見、本事業制度や公募テーマに関するご意見等が御座いましたら、記載してください。 |

* (1)～(4)の情報提供に当たって、必要に応じて枠のサイズを調整、補足説明資料を添付頂いて構いません。